

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	篠木幹子		
NAME	Mikiko Shinoki		

1. 研究課題

（和文）高齢化社会における高齢者行動と環境制度の検討

（英文）The study of elderly person behaviors and environmental system in the aging society

2. 研究期間

2019・2020・2021年度 ※2021年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により1年間延長

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究の目的は、高齢者率の増加により、現代社会において循環型社会の構築や気候変動の防止等のために機能している環境配慮行動を支える制度の崩壊がありうるのか、どのような条件下であればそれらの制度の維持が可能なのかという問いを、質的調査と計量的な社会調査の手法を用いて明らかにすることにある。とりわけごみ分別制度に焦点をあて、高齢者の増加によってごみの分別が困難になっている地域や、高齢者のごみ分別支援の制度をつくって対応をしている地域に焦点をあて、現実の問題として、どのような状況が生じているのかを把握し、過去に収集した個人の行動に関するデータを分析することで、高齢者の行動の特徴を把握することを目的としている。

分析の結果、高齢者の増加によって、各地域において高齢者（地域によっては要介護認定を受けていることが条件である場合もある）を支援する制度ができつつある状況であり、環境省の調査では、全国の25%の市町村がごみの収集に関する高齢者支援制度をつくっていることが明らかになった。また、ごみ出し支援のタイプとしては、直接支援型、コミュニティ支援型、福祉サービスの一環型などがあり、各市町村の都市規模、高齢化率等、市町村の環境政策のポリシーに従ってそれぞれの支援策がとられているが、支援制度の増加に対応しきれない市町村が出てきていることがわかった。

（英文）

The purpose of this study is to examine whether current waste management systems can be maintained due to the increase in the elderly rate. I focused on some cities where it is difficult to separate recyclable materials due to the increase in the elderly people, and cities where the municipals settled the waste management support system for the elderly people to solve the problem.